

研究課題番号	【1-2104】
研究領域	統合領域
研究課題	「ローカルSDGs推進による地域課題の解決に関する研究」
研究代表者（所属）	川久保俊（法政大学）
研究期間	2021年度～2023年度
研究キーワード	持続可能な開発、ローカルSDGs、インディケータ、オンラインSDGsプラットフォーム、ポスト2030年開発アジェンダ

研究概要と達成状況

研究概要

SDGsの推進には自治体による取組が不可欠であり、SDGsを原動力とした地方創生の推進、強靱な循環共生型社会の構築の重要性が謳われている。そこで、本研究ではローカルSDGsの策定支援を通じて地域課題の解決に貢献することを目的とする。

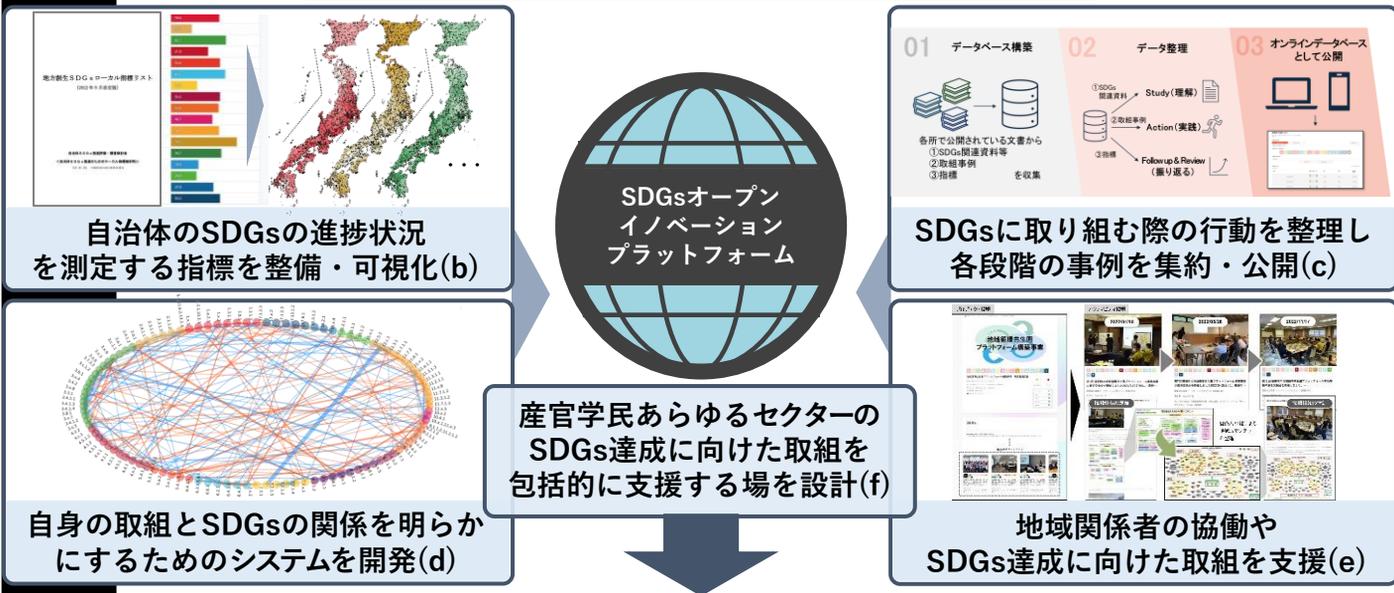
研究成果

自治体におけるSDGs達成に向けた取組の実態をアンケート調査 (a)

回答自治体の79%（全国自治体の66%）がSDGs達成に資する取組を行っていることを把握

→ 一方、 $\left\{ \begin{array}{l} \cdot \text{行政内部での理解、経験や専門性の不足（回答自治体の34\%）} \\ \cdot \text{先行事例や成功事例に関する情報不足（回答自治体の25\%）} \end{array} \right\}$ 等の障壁が存在

これらの障壁を解消するための知見や技術の創出を目指した



環境省の地域循環共生圏プラットフォームと連携しつつ、SDG達成に取り組む関係者の支援体制を整備

目標達成状況

①SDGsの視点に基づく各自治体の特徴（長所、課題等）の把握

目標を大きく上回る成果をあげた
対応する成果： (a, b)

②地域課題を解決するための「SDGsオープンイノベーションプラットフォーム」の開発

目標を大きく上回る成果をあげた
対応する成果： (f)

③ローカルSDGsの推進および地域循環共生圏の形成に向けたビジョン・計画の策定支援

目標を大きく上回る成果をあげた
対応する成果： (c, d, e)

環境政策等への貢献

- 自治体のSDGsに達成に向けた取り組み状況を測定する指標やその結果を可視化するシステムを開発した。このような実態把握はローカルSDGs推進の際の礎となる。
- SDGs達成に資する取り組みを行う関係者がオンライン上で関連情報を検索、取組情報を発信、互いに連携・協働・共創できるようなプラットフォームの整備につなげた。
- SDGs達成に向けて取り組みを行う関係者を支援するためのアクションデータベースやSDGs概念翻訳システム（AI）を開発した。これによりSDGsアクションの更なる展開・深化が期待される。